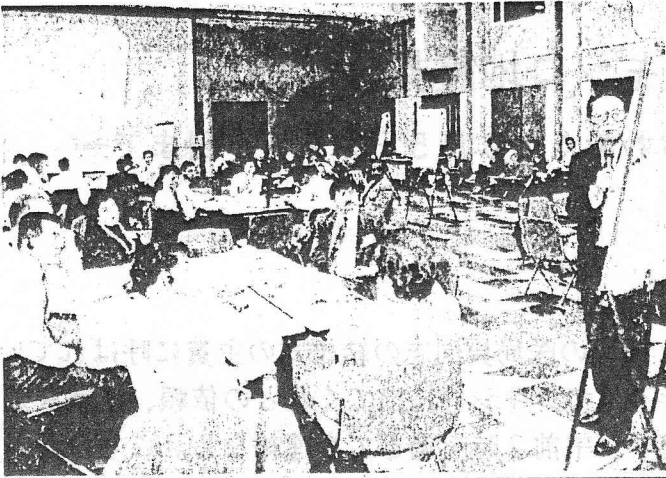


開発途上国の支援模索

岡山を拠点に国内外のNGO（非政府組織）のネットワーク作りを進める「おかやま国際貢献NGOサミット」が十四日から四日間に、岡山市を主会場に開かれる。「生存のための教育」を総合テーマに、貧困の中心で生命の危機にさらされる開発途上国の人々にNGOとして何ができるか、模索する。

20カ国から34団体参加

アジア地域を中心に海外約三十団体と四百人の会員 役を務める。二十カ国からNGOなど三で構成する「国際貢献トピ」サミットは十四日午後一十四日開休、四十二人が参加岡山構想を推進する会」時から、ノートルダム清心加。岡山県内のNGOなど（谷口澄夫会長）がホスト。女大カリタスホール（岡山



NGOとして支援できることを考える「おかやま国際貢献NGOサミット」（昨年10月）

山市伊福町）で開会。WHO（世界保健機関）顧問でパキスタン元厚生大臣のモハメド・サイドさんが、テーマに沿って基調講演。その後参加NGO代表がそれぞれの活動を報告する。十五日は岡山国際交流センター（同市空選町）で、ユニセフダッカ事務所員らが講師になり、免疫予防や母子保健医療の研修を行う。同日夕方からは岡山、倉敷、津山、加茂川、哲多、和気、牛窓の県内七市町に分かれ、それぞれのテーマでシンポジウムなどを開く。

最終日十七日は各会場で河津橋結束を岡山国際交流センターで報告。「95年度おかやま宣言」を採決する。

海外の参加者は滞在、県内のホストファミリー宅に宿泊。地域住民との交流もあり、津山会場では津山洋子資料館の児童会や郷土料理を食べながらの懇親会を開催。岡山会場では早稲小学校での授業観戦も。トピアの会会員で倉敷会場代表の阿川信幸・日本砂漠緑化実践協会岡山連絡会会長は「ボランティア活動

をしたいと思っていながら、何をしたらいいかわからないという人が多い。サミットをきっかけに積極的に活動に参加してくれる人が増えるのを期待している」と話している。

今年で二回目の同サミットは、期間中のほとんどが行事に一般の参加が可能。問い合わせは「国際貢献トピア岡山構想を推進する会」(☎086・234・5228)へ。